



JAM 組織グループ
鈴居 千世子

私は2016年9月に「ものづくり産業労働組合JAM」に入局し、早速、翌月の10月からユニオンカレッジを受講しました。

私のような全くの新人が受講して良いのだろうか、と緊張しながら初回に挑んだ記憶があります。結果として、ユニオンカレッジで学んだ知識や考え方が、この一年、様々な

場面でたいへん役立っていると感じています。

講義内容はとても幅広く、しかも、ただ座って聞くだけではなく、テーマが出され、それについて考える時間が設けられていた

全労生「ユニオンカレッジ」を受講して

り、チームでロールプレイしたりと、主体的に参加しながら受講する講義も多々ありました。

自分の経験不足から「困った、どうしよう」と思ったことも複数回ありましたが、一緒に受講した方々から毎回

的確に、私もしっかりと参加できる形で助けていただき、そのような点からも労働組合役員の「困っている人を助ける能力の高さ」、さらには講義と合わせて「労働組合の存在意義や素晴らしさ」を実践で実感として強く再認

できた時間だったよ
うな気がします。

また、業種も規模も歴史も様々な、たくさんの方々が参加されていたのですが、同じ内容の講義を受講しても、それぞれの組合が置かれている立場からの全く別の質問が

出てきて、「立場が違えば視点も変わる」ことについて、たいへん興味深く学べる貴重な経験となりました。

この質疑応答の時間により、その日に受講した講義についてより深く、様々な角度から考えるきっかけを持つ

ことができたと感じます。

当初の「経験不足ゆえの緊張」は全くの杞憂に終わりました。ユニオンカレッジでは、「幅広い知識」だけでなく、労働運動に携わる者としての「人間力」も学ばせていただいた

ような気がします。また、その後も一緒に受講した方々と様々な場面でお会いすることがあり、何かと助けていただいております。そのような心強い仲間と出会う機会をいただけたことにもたいへん感謝しています。

今まさに、受講した複数の内容が役立つ場面において、ユニオンカレッジで受講したような講義を「幅広く体系的に」受講することの重要性を痛感しています。

今後より多くの皆様に参加され、労働運動のさらなる前進と発展に寄与されることを心より期待しております。